

わかみやだより

㊦ かしあい、㊦ かんがえ ㊦ つけて、㊦ ってみよう

「対応する力」を学んだ自然学校

今回の自然学校では、雨で活動のいくつかを変更せざるを得ませんでした。しかし、子どもたちにとって、この状況は「対応する力」を身につける機会となりました。

自然学校の目的は、単に決められたプログラムをこなすことではありません。いつもと違う環境、予測不能な自然の中で、「予定通りにいかない現実」に直面したとき、どう考え、どう行動するかという「対応力（非認知能力）」を身につけることでもあります。

今回の雨の中での経験は、子どもたちにとって次のような大きな学びとなりました。

柔軟性：状況に合わせて計画や行動を変える力。

主体性：「自分たちに何ができるか」を考える姿勢。

協働性：変更によって生まれた困難を、目的を持ってチームで乗り越える力。

今回の子どもたちが考えた目標は「協力→成長」でした。子どもたちは「雨」という不便さの中で、変化に対応し、目的を持って行動するという大きな便益（メリット）を得ることができました。

この経験は、今後の学校生活や将来、様々な困難に立ち向かうための大切な土台となることと思います。

2学期の外部施設委託による水泳授業が始まりました

保護者の皆様には、毎朝の健康観察や、水着等のご準備にご協力ありがとうございます。2学期には1年生、2年生、4年生の実施しております。引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

自分たちで作る学校 ～2、3、4年生の様子から～

2年生は、自分たちの生活空間を自ら整える意識が大きく芽生えています。教室からは、元気な挨拶が響いていました。「スリッパを自分たちで並べました」「汚れた雑巾を整頓してかけ直しました」と、報告してくれる姿も。自分のことは自分たちで、という自立の心が育っています。

3年生は、自分たちのクラスの枠を超え、学校全体の動きに目を配るようになりました。給食の準備が遅れている学年があると、手伝いに駆けつける優しさを見せてくれました。また、学校内で危ないなと思った箇所をすぐに先生に知らせてくれて、学校全体のことを考えて行動しようとする子どもたちが増えてきました。

4年生は、自然学校で不在の5年生の分まで学校を支えました。5年生が担当する下足箱や廊下の掃除を引き受けました。高学年として学校をリードする自覚を感じました。

地域の方と交わす「心のこもった挨拶」

子どもたちの成長は、地域の方々の温かい見守りによって支えられています。

地域の方から「子どもたちに出会ったら、丁寧に挨拶をしてくれますよ。嬉しいですね。」と、心温まるお言葉をいただきました。地域でもあいさつを実践できていることを嬉しく思います。また、地域の方が挨拶を返してくださることで、子どもたちの意欲はさらに高まります。地域の皆様が、子どもたちの規範意識と社会性を育てくださっていることに、心より感謝申し上げます。